

連携し業務拡大へ

大西会長・山本社長に聞く



カトーレックのグループとなり、今後の展開を語る大西物流の大西三喜男会長(左)と山本芳弘社長(右)の2人が、四国中央市豊岡町大町で、11月4日午後、面談した。

2001年から社長を務め、11月4日付で会長に就任した大西三喜男氏(61)と、カトーレック出身で同日付で社長に就いた山本芳弘氏(64)にグループ化の狙いやビジョンを尋ねた。

大西会長 燃料費高騰や、トラック運転手への時給外労働の上乗せが適用され、人手不足とそれに伴う物流の混乱が予想される「2024年問題」など、

業界の問題は1社で解決できるものではない。いわば「時代の要請」。より大きなグループで合理化、効率化を図るべきだと考えた。加えて大西物流は荷主者間にもあった。

大西会長 輸送に携わるさまざまなコストが上昇する中、時間的ロスへの解決や適正な料金収受に顧客の協力、理解は不可欠になる。顧客に理解を得るためには、サービスの質の向上や物流の安定供給が重要で、それを実現するためには、担い手である自社の「従業員の手配」をまず大前提にしなければならぬと考える。「単なる安値・立派な会社」は非現実的だ。

地域の人口減少や人材不足の問題は業界も共通の課題で、企業間士の連携はさらに進むだろう。人材確保や働きやすい環境づくりの促進も、グループ化の大きな理由の一つだ。顧客が安心して荷物を任せてくれる会社であり続けたい。

カトーレック グループ企業に

物流大手のカトーレック(東京)は6日までに、県内大手で四国中央市の大西物流の株式を8.8%取得し、グループ企業とした。トラック運転手の人手不足や燃料高騰など業界の環境変化を踏まえ、ともに四国で創業した同社の強みを生かして効率化や顧客サービスを向上させる狙い。

同社によると、主要分野以外の拠点を共用すること、輸送といった効果が期待できることや四国内で、共同配達の充実や中継させると思惑が一致した。

大西会長 双方が優良顧客を持ち、もともと運送の運営会社の荷物を請け負う「共同配達」が強みである。大西物流の主力の紙製品や食料品、日用品類の運送も効率化を図ってきたが、お互いの拠点や顧客先を生かす、新機軸の拡大につなげられる。

山本社長 取り扱う荷物の連携はもともと、両社の各拠点でこなす中継輸送も

大西物流(四国中央) グループ企業に

「カトーレック」県内外の運送や倉庫、流通加工などのロジスティクス事業のほか、電子機器製造販売サービスのEMS事業を扱う。2021年12月期のグループ売上高は92.6億円、従業員8410人、車両数700台。明治時代に高松市で開いた同企業が祖業で、1967年合併設立。92年に加藤隆雄から社名変更した。東京と高松に本社がある。

大西会長 輸送に携わるさまざまなコストが上昇する中、時間的ロスへの解決や適正な料金収受に顧客の協力、理解は不可欠になる。顧客に理解を得るためには、サービスの質の向上や物流の安定供給が重要で、それを実現するためには、担い手である自社の「従業員の手配」をまず大前提にしなければならぬと考える。「単なる安値・立派な会社」は非現実的だ。

地域の人口減少や人材不足の問題は業界も共通の課題で、企業間士の連携はさらに進むだろう。人材確保や働きやすい環境づくりの促進も、グループ化の大きな理由の一つだ。顧客が安心して荷物を任せてくれる会社であり続けたい。

山本社長 取り扱う荷物の連携はもともと、両社の各拠点でこなす中継輸送も

大西社長ラジオ出演

六月二十七日（土）16時00分、地元放送局のラジオ番組「ザ・VOICE」で、大西社長へのインタビュウが放送されました。



収録スタジオ風景



少し仕事の手を止めて、ラジオに耳を傾けます

関西支店

太陽光パネル設置

六月二十四日、夏の猛暑対策（屋根への直射日光を緩和）の目的で、関西支店屋上に第二電力株により太陽光パネルが無償で設置され、八月二十七日から発電を開始しました。



搬入



設置完了

大西物流版

「ジモティー」

ジモティーとは

中古差し上げます・譲ります（家電製品・家具・自転車・ペット等）の地域広告掲示板です。

このたび、「大西物流版ジモティー」として、社員間限定で種々の品物を譲り合う場を設けました。



業界記事 共配ネット「高評価」

物流ニッポン LOGISTICS NIPPON

SOFT
20周年

共配ネット「高評価」

社会貢献 役目果たす

【広島】中国・四国地方の物流企業4社で組織する共同配送ネットワークのSOFT（石井宏会長）は設立20年を迎え、4月21日開催の総会で記念行事を行った。

メンバーの新生倉庫運輸

（石井社長、広島市南区）、大西物流（大西三喜男社長、愛媛県四国中央市）、服島運輸（服島龍男社長、鳥取県米子市）、徳山トラック（小林義和社長、山口県周南市）の経営者と実務責任者らが出席し、新生倉庫運輸の会議室で総会を開いた。

石井会長は「全国的にも先駆的な取り組みで、顧客

の信頼を得て、物流品質が高評価されている。物流効率化や環境負荷低減にもつながり、社会貢献の役目も果たしたと自負する。働き方改革においても、グループで克服していきたい」と語った。

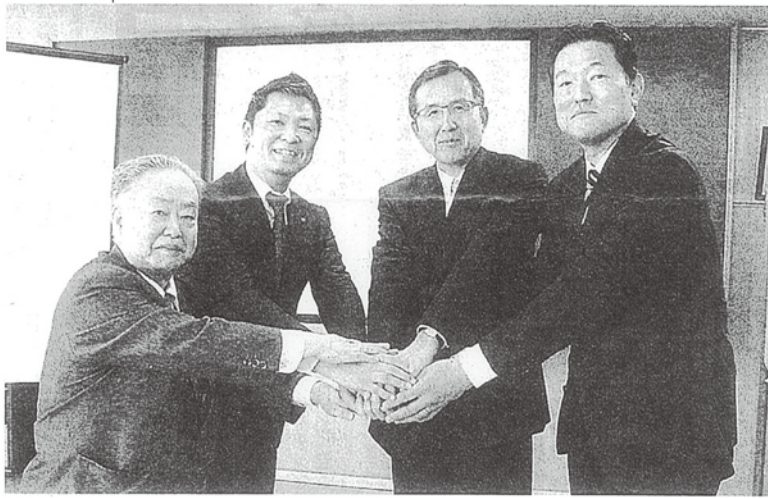
また、大西副会長が「小さいことでも一生懸命やり続けると、思いも寄らない成果が出る。現在やるべきことは条件改定と生産性の向上で、大規模災害への備えや人口減少社会への対応も忘れずに進めなくてはならない」と強調。

服島副会長はこの20年、SOFTに育ててもらった。社会的規制の強化や労

働力不足、流通の変化など、厳しい時代だが、SOFTをプラスに転じるきっかけにしたいと期待を込めた。続いて、小林副会長が「変化と成長を繰り返して今日がある。これからも指導していただきたい」と述べた。

更に記念行事として、グループ草創期から現場で支えていた新生倉庫運輸OBの大杉博政、松本新治の両氏を招き、大杉氏が講演した。SOFT結成に至った背景について語った。

握手する（左から）石井会長と服島、大西、小林の各副会長



大杉氏はグループが結束するための条件として「各社の地域性や市場規模が違

いの関係になるには、ガラス張りの運営が不可欠」と指摘。「人口減少に加えて法令順守が求められる中、メーカーも含めて物流を再検討する時代が来た。下請けではなく、パートナーというプライドを持って臨んで欲しい」とエールを送った。

業界新聞に当社大西社長の紹介記事

大西物流（本社・愛媛県四国中央市、大西三喜男社長）は製紙関連の輸送を基盤に、その他の分野で20年以上前から、複数メーカーの商材を扱うハブ・アンド・スポーク型の共同配送に注力。年々売上比率を高めてきた。前期は2期連続の増収増益で、「顧客と社員に恵まれた」と大西社長。今年3月に仙台、6月には神戸に拠点を開設し、関東、関西圏での事業拡大で成長を目指す。

大西物流社長インタビュー

——前期の業績は。

大西 増収増益だった。

売上高は前期に比べ1・4%増の60億5500万円。目標の63億円には届かなかったが大台には乗った。荷主に恵まれ、社員は勤勉。輸送品質でメーカーから評価されることも多い。

——今期はどうみる。

大西 増収の見通しだが減益は避けられないのではないかと。コストアップ要因が少なくない。軽油価格が上昇に転じ、人件費、備車費も上がっている。

——製紙関連貨物の取り扱いがメイン。

大西 本社がある愛媛県四国中央市は製紙業が盛んで、売りの2割強を占

める。当社は昭和29年、製紙会社の運輸部門が独立して発足した会社でもある。幹線から配送までトータル

——共同配送が強み。

大西 製紙以外の荷物を

を始めた。四国中央市は4万8000平方メートルの倉庫群がある。共同配送は日量200〜300トンの取り扱いがあり、品目は食品、菓、高速道路も早期に開通した。長距離貨物切りの輸送に比べ幹線輸送、保管、流通加工、配送をトータルで行うことは他社との差別化

共同配送に活路

顧客と社員に恵まれ

取り込む必要があるとし、20年以上前から、本社周辺にある四国中央市に荷物を集約し、四国全域に配送するハブ・アンド・スポーク型の物流サービスで共配

——規模は。

大西 四国中央市ポの延べ床面積は約9000平方メートルで、ほか本社周辺に計1

——集配はどのように。

大西 集荷は主に大型車を

を関東、関西などに輸送した後の帰り荷にもなり、積載率が向上する。集めた貨物は四国中央市で仕分けなど流通加工を行い、自社、協力会社を合わせ約1000台の車両で四国各地に配送する。

——どこを強化しているか。

大西 四国は人口減少で物量に限りがある。関西、関東圏の豊富な需要を取り込んでいく。拠点を新設する神戸には顧客も多い。徳島など四国東部向けの荷物は、神戸から運んだ方が効率的だ。四国中央市が手狭になっており、倉庫内作業の効率化、安全確保の面でも効果が見込める。

3月仙台、6月神戸に拠点

——関東、関西にも倉庫を持つ。

大西 埼玉県越谷市と大阪府大東市に支店を構え、それぞれ倉庫を併設している。3月に仙台、6

大西 状況は都市部より厳しいのではないかと。四国中央市には製紙工場など働く場所が多く、パート・アルバイトの持給は高騰している。人材確保には運賃値上げが欠かせないが、簡単ではない。輸送品質を武器に、品質の維持・向上にはコストがかかるということ

九州、関西、関東、東北の各地区でも輸送ネットワークを構築している。を、荷主に粘り強く訴えていくしかない。